

先生や職員 教室にいない 校内放送 故障で使えない 非常階段や廊下 通れない

「想定外」防災訓練にも

県内の学校 子供の対応力強化

「避難路が通れない」「先生がいない」など「想定外」の要素を防災訓練に取り入れ、児童や教職員の対応力強化を図る学校が兵庫県内で増えている。東日本大震災をきっかけに始まり、淡路島では1年前の地震後、各校が積極的に工夫を凝らす。(1面参照)

淡路島地震1年



「想定外」の訓練に備え、避難経路を通行止めにする教職員。2014年1月、洲本市立由良小学校(同校提供)

県が昨年末に発表した想定によると、南海トラフ巨大地震で最大5・3級の津波に襲われるとされる洲本市由良地域の由良小学校。1月の訓練では、放送設備が使えず、避難経路の廊下や階段の一部を通行不能とした。教職員は各自の判断で指示し、不在の場合には子供だけで避難経路を探した。当時の6年生不動愛美さん(12)は「早く逃げよう」と一生懸命考え、渡り廊下を通った」と振り返る。

「毎年少しずつ変えれば、子供や先生の意識が高まる」と赤松利信教頭。本年度は、集合時に一部の児童が行方不明になる状況を想定するという。

南あわじ市の賀集小は非常階段が使用できない状況で実施。淡路市の大町小は校内放送が使えない事態を考慮し、トランシーバーでの情報伝達に臨んだ。同市の富島小は教職員にも予告しない抜き打ち訓練を検討している。

想定外訓練は、国が2012年度に始めた実践的防災教育総合支援事業で推奨しており、13年3月改訂の兵庫県教育委員会「学校防災マニュアル」に具体例が加えられた。

(上杉順子)

©神戸新聞社 無断転載・複製および頒布は禁止します。

① 記事中の各学校が「想定外」として取り入れた要素は何ですか。分かる部分に線を引きましょう。

② 「想定外」の訓練をする目的は？

③ この記事の感想を書きましょう。

学びポイント

- ・「こんな時はどうしよう?」と、場所、時間、状況を変えて避難経路などを考えてみましょう。
- ・先生やおうちの人とも話し合ってみましょう。

NIEワークシート／小学校～中学校／防災、朝NIE、家庭NIE

名前【 】